

海風日記

長い年月をへて、今は日本郵船歴史博物館に
収蔵されている貴重な品々を海風に乘せて紹介します

“よこはまいちらんのしんけい” 横浜式覽之真景”



五雲亭貞秀 1871(明治4)年 木版 縦70.0cm×横210.0cm(常設展示)

寒村であった横浜は、1859(安政
6)年に開港し、わずか数年の間で国
際都市へと発展しました。1871(明治4)
年に作られた「横浜式覽之真景」には、ガス灯
製鉄所など文明開化の象徴が多く描き込ま
れ、沖には船が多数浮かびその発展ぶりがよ
く分かります。

中でも、作品上の別図①に描かれた吉田
橋は、港の入り口となる重要な橋で、この橋を
挟んで港側を関内、現在の伊勢佐木町側を関
外と呼んでいました。1869(明治2)年に英
国人技師リチャード・ブランドンによって架け
替えられました。トラス構造を取り入れた
鉄橋としては日本で最初のもので、当時、鉄の
橋がいかに衝撃的であったかを伝えています。

この絵の作者は五雲亭貞秀(1807~
1879?)。晩年の65歳の時に描いた一点です。
歌川国貞(1786~1865)、のちの三代目歌川豊
国の門人となり、歌川貞秀を名乗りました
が、他にも多くの呼び名を用いました。

この作品で貞秀は、色使いも美しく、あら
ゆる角度、高度から横浜を見下ろし、現在の
山下公園の沖合に見える神奈川宿、桜木町
方面の日本人居住区、元町方面の外国人居留
地から中村川を挟み、山手とその先の根岸村
の様子まで克明に描いています。この絵から
現在の場所を確認するのも楽しいでしょう。

問い合わせ

日本郵船歴史博物館

- 所在地：神奈川県横浜市中区海岸通3-9
- 電話：045-211-1923
- 開館時間：午前10時~午後5時
(最終入館：午後4時30分)
- 休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

- 入館料：一般400円、
シニア(65歳以上)・中高生250円、
小学生以下無料
(NYKおよびグループ会社社員と同伴者1人まで、社員証の提示で
入館料無料)
- ウェブサイト：<http://www.nyk.com/rekish>